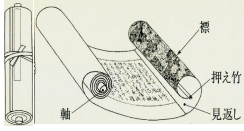
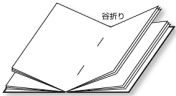
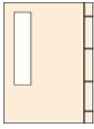
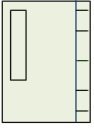
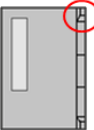
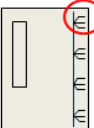
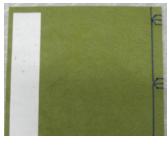
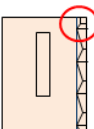


【装訂から見た和本の種類】

*装訂＝書物の製本、仕立て方のこと。

種類	形態	古書資料館資料例	
糊を使つてまとめる	巻子本 		紙を何枚かつないで、軸と表紙をつけた巻物。書物の装訂としてはもっとも古い形で中国から伝来した。 ※数え方の単位：軸。
	折本 		巻子本を端から一定の幅で折りたたんでいき、前後に表紙をつけたもの。 ※数え方の単位：帖
	旋風集 		折本の表表紙と裏表紙をつないだ本。風にあおられ、本紙の部分が吹き上げられるのでこの名前がついたと思われる。 ※数え方の単位：帖
	粘葉装 		紙を二つに折って複数重ねていき、それぞれの折り目の外側同士を糊付けして、背を表紙で覆って糊付けした本。胡蝶装(こちょうそう)とも呼ばれる。 ※数え方の単位：帖
糸を使つてまとめる	列帖装 		紙を数枚から10枚程度重ねてから二つ折りにしてひとくくりを作る。それを数くくり重ねたものに両表紙を加え、折目の部分に穴をあけて糸で綴じた本。 ※数え方の単位：冊
	袋綴 		文字の書かれた面を外側に2つ折りし、二つ折りにした紙を重ね、折目の反対側を糸で綴じた本。仮綴をした後で表紙をつけ、糸で綴じる。和本の代表的な装訂。綴じ方は多様。 ※数え方の単位：冊
	四つ目綴 		袋綴本の綴じ目が4つあるもの。袋綴本などを綴じる代表的な方法。明朝綴・四針眼訂法とも呼ばれる。
	五つ目綴 		袋綴本の綴じ目が5つあるもの。朝鮮綴・五針眼訂法とも呼ばれる。
	康熙綴 		袋綴本の綴穴が六つあるもの。中国清代の康熙年間に流行したので、この名前と呼ばれる。六針眼訂法とも呼ばれる。
	亀甲綴 		袋綴じの一種。四つ目綴じの部分に亀甲に似た形に綴じるからこう呼ばれる。
	麻の葉綴 		袋綴じの一種。上・下の綴の部分に麻の葉の模様に飾って糸でかがったもの。
	大和綴 		袋綴じ・列帖装の一種。右端に縦に2つずつ上下に穴をあけ、紐や数本の糸で結び綴じにしたもの。日本独自の装訂。

【特殊な形態の和本】

種類	古書資料館資料例	
掌 中 本		懐に入れて持ち歩くのに便利な大きさのもの。旅行案内書や手引書が多い。 ※数え方の単位：冊
豆 本		掌に収まる程度の小さい本のこと。 ※数え方の単位：冊
一 枚 物		地図など、1枚の紙をそのまま利用し、一枚に刷り上げたもの。絵図・広告・案内書など種類が多い。 ※数え方の単位：枚
畳 み 物		地図・双六・年表などを折りたたみ、一番外側になる部分に表紙をつけたもの。 ※数え方の単位：舗

（参考文献）
 井上宗雄・岡雅彦・尾崎康・片桐洋一・鈴木淳・中野三敏・長谷川強・松野陽一編『日本古典籍書誌学事典』（岩波書店、1999）
 川瀬一馬『日本書誌学用語辞典』（雄松堂書店、1982）
 藤井隆『日本古典書誌学総説』（和泉書院、1995）
 山本新吉『古典籍が語る』（八木書店、2004）
 池上幸二郎・倉田文夫『本のつくり方』（主婦と生活社、1980）
 小野忠重『本の美術史』（河出書房新社、1978）
 橋口侯之介『和本入門』（平凡社、2005）